

The Reminiscence of Exellia NG+1

死にゆく者が散らした火花

作成レギュレーション

基本概要

- ・ 経験点：133500 / 145000 点
- ・ 資金：222000 / 246000G
- ・ 名誉点：1500 / 1800 点
- ・ 成長回数：235 回
- ・ レベル制限：13
- ・ アイテムレベル制限：武器ランク S 以上
- ・ ステータスリミット：各項目ボーナス 13 まで

各種制限

- ・ ヴァグランツ、蛮族 PC 禁止
- ・ SW2.0 / 2.5 標準流派入門・使用禁止
- ・ 武器防具強化に関する特殊制限
- ・ シナリオ報酬の成長回数が 10 以上のとき、60%以上の偏重割り振りの禁止

動画用メモ

その他メモ

インスタンスダンジョン「廃墟搜索 ラテリック御用邸」

BGM：

- ・ 道中：Reflections – Drake's Head
- ・ 1 ボス、2 ボス、3 ボス前半：On the Shoulder of Giants
- ・ 3 ボス後半：Control (※)
- ・ 3 ボス後イベント BGM：Fall from Grace (召喚獣コズミック・クェーサー・リズン

VS 召喚獣レギンレイヴル)

開始～1 ボス道中：アンデッド系、アカシア系

1 ボス：ラテリック・ハウスキーパー (リッチ種)

1 ボス～2 ボス道中：アンデッド系、魔動機系

2 ボス：ラテリック・サナトフォビア (ネクロフォビア種)

2 ボス～3 ボス道中：アカシア系、魔動機系

3 ボス前半：チラーダ、スバルナ（※どちらもガルーダ（SW2.5）の強化版）

3 ボス後半：ガルーダ（FF14）

※3 ボス後半は、召喚獣レギンレイヴルを操作するものとする（召喚獣合戦）。

導入

覗く深淵、覗かれる思念

筆を進める。

その筆で記したのは、長期的な物資供給と、龍姫公の完全討滅に関する契約書。

エクセリアは、昨日起こったことを、つつがなく蘆田に報告していた。それ故に、蘆田は龍姫公の完全討滅を、次の条約の締結条件としてきたわけだ。

彼女はそれに調印し、龍姫公を指名手配することにした。

エクセリア

「さてと、次は…」

次にやるべきことを鑑み、それに手をつけようとした瞬間、エクセリアは恐ろしいほどの寒気と同時に、一瞬だけ蒼い残り火に包まれた。

その顔を拝んだ瞬間に、エクセリアの表情は一気に曇り、不服さを訴えるようなものに変化する。

エクセリア

「立ち入りは禁じていたはずだが。なぜ外なる神に連なるお前が、ここに来ている？」

そこに立つ、黒いローブの性別不詳を、エクセリアは存在定義を視ることでどんな存在なのかを把握していた。

<hr>

…その2日後。

しょぼくれるエクセリアを尻目に、エメリーヌが君達に話をするべく呼び止めていた。

（※GMメモ：RP待機）

エメリーヌ

「集まってもらったのは、まあ…面倒な依頼が来たからよ」

(※GMメモ：RP待機)

エメリーヌ

「ラテリック家という、貴族の御用邸…そこの執事の依頼よ。3年前の拠点機能移転で使わなくなった、旧ラテリック御用邸の探索を依頼してきたの。曰く、2年前から、ラテリック家のご令嬢がそこに入り浸っているとか…」

そう言って、エメリーヌはラテリック家について大まかに語る。

(※GMメモ：BGM「The State of the Realm」

各フレーズ”RP待機”)

エメリーヌ

「ラテリック家は、旧体制ではそれなりの発言力を持っていた貴族で、伯爵だったわ。

でも、エクセリアによる龍姫公征伐を発端とする革命と、それに伴う新政権への移行によって、その発言力は徐々に失われていったわ」

「旧来派に属していなかったが故に彼らからは冷遇され、かといって庶民層から選出された議員からは旧来派と同列の人間として貶められるという屈辱を味わっていたのよ」

「そして、その現実が嫌だったのでしょね…ラテリック家の伯爵令嬢、アレクシア・フォン・ラテリックが、2年前に新居から脱走。それから帰ってくることなく今に至るといったところかしら」

(※GMメモ：RP待機)

エメリーヌ

「…執事の依頼は、彼女を連れて帰ってくることと、旧ラテリック御用邸の稀書回収。

あなた達には、このうちアレクシアを連れて帰ってくことを依頼するわ。

稀書回収にはエイル隊を当てるわ…。だから気にせず、まずは旧ラテリック御用邸を制圧して頂戴」

コンテンツ解放：廃墟探索 ラテリック御用邸

光の反響 ～古龍の頭～

開始カットシーン

その御用邸は、その荘厳な雰囲気に対して、闇が渦巻いていた。

いや、元よりそうだったのかもしれない。

だが仮にそうだとすると、あまりにも異質すぎた。

開始～1 ボス道中：ラテリック御用邸

君達は、闇が渦巻くそこを探索することになる。

探索判定 目標値：26／30

1 人でも失敗した時、敵側先制で戦闘開始。

成功時、ここには闇の他に、風属性を帯びた魔力が漂っていることが分かる。

大成功時、この区間には稀書がないことが分かる。

探索中の君達に、魔物が襲いかかることになる。

敵：アカシック・セプター×1、アカシック・マスティフ×4

(※GMメモ：RP待機

また、判定に1人以上失敗していて、かつ1人以上成功／大成功している場合、ここで判定結果を述べる)

君達は魔物を倒した。しかし、騒音を聞きつけてか、亡者が這い出てきた！

敵：ラテリック・デッドハウンド×4、ラテリック・リグレット×1

君達がそれらを打ち倒すと、扉の鍵が開く音がした。どうやら、この通路の奥に部屋があるようだ。

1 ボス：ラテリック・ハウスキーパー

君達が通路奥の部屋に辿り着くと、そこには何もいなかった。

いや、辿り着く直前までは、というのが正しいだろう。

空間が開くと同時に、そこから一つ目で細身の体格をした大鎌使いが現れるだろう。

(※GMメモ：RP待機)

敵：ラテリック・ハウスキーパー

君達はラテリック・ハウスキーパーを倒した。それが消滅すると同時に、空間に裂け目が生まれる。

(※GMメモ：RP待機)

来い、ということなのだろう。君達はその中に乗り込むことになる…。

1 ボス～2 ボス道中：ラテリック御用邸地下

君達は裂け目の中に入った。どうやら、御用邸の地下にあたる場所のようだ。

(※GMメモ：RP待機)

探索判定 目標値：26 / 30

1 人でも失敗したとき、敵側先制で戦闘開始。

成功時、ここの風属性魔力は弱く、闇の魔力が強いことが分かる。

大成功時、ここには稀書が置かれた図書室のような場所があることが分かる。

まるで墓荒らしに対する反撃かのように、周囲の魔動機が君達に殺意を向けてきた！

敵：マギテック・セントリー×5

君達はマギテック・セントリーの群れを撃破した。

しかしなぜだろう。まだ見られている気がする。

危険感知判定 目標値：26

失敗時、敵側先制で戦闘開始。

ラテリック・ライブラキーパー

「図書室で武器を持つことなかれ。それでも武器を持つなら…！」

敵：ラテリック・ライブラキーパー（※ベースは殺戮の魔動天使）

君達は、ラテリック・ライブラキーパーを死なない程度に殴って継戦能力を失わせた。

PC への選択肢

- ・ここで何をしていた？
- ・あなたは何者だ？
- ・ふんす（※肉体の筋肉を見せて威嚇）

選択肢 1：ここで何をしていた？

アストリッド

「わ、私ですか！？私、アストリッドって言います！

15 年前にオルゴールが聞こえて以降も、主君の命令を優先して、ずーっとここで蔵書の管理をしてました！」

（※GM メモ：RP 待機）

選択肢 2：あなたは何者だ？

アストリッド

「わ、私ですか！？私、アストリッドって言います！主君の命令で、ここの蔵書の管理をしてました！」

（※GM メモ：RP 待機）

選択肢 3：ふんす

アストリッド

「ひええ！？唐突に筋肉見せ始めましたよこのひとおおお！？

言います！私のこと言いますから！私、アストリッドって言います！主君の命令で、ここの蔵書の管理をしていたものです！！

ほら言いましたから！とりあえずその筋肉見せるのやめてえええ！」

（※GM メモ：RP 待機）

選択肢後

アストリッド

「確かに、3年前から主君らをお目にかかることはなかったのですが…なるほど、そういうことでしたか。目的は…令嬢ですね？なら、書庫奥の休憩室で匿ってましたよ」

「え、彼女を連れ出してくれと、あなた達に依頼した者達が…？分かりました。あなた達のお仲間が、後をつけているのであれば、彼らがきたときに脱出させますね」

君達が彼女との会話を終えると、どこかで鍵が開く音がした。

アストリッド

「…やはり、なにかしらいるようですね…」

アストリッドは、何かを感じ取っていた。

2 ボス：ラテリック・サナトフォビア

君達が地下の最奥に辿り着くと、そこには人影があった。

目元を覆うようにして角が生え、翼を持ち、本体の周囲を4基の浮遊体が動く生物。

セリーヌ

「みんな、大丈夫…！？」

そこへ、セリーヌが駆けつける。その声を聞いてなのか、それはセリーヌに対して敵意を向けていた。

(※GMメモ：RP待機)

敵：ラテリック・サナトフォビア

この戦闘から、3ボスまでの間の戦闘までは、セリーヌも戦闘に参加します。

この戦闘においては、敵視を取っても、1dを振り、出目が4以上ならば、必ずセリーヌに攻撃対象が向きます（通常攻撃のみ）。

セリーヌはレベル13の「巫覡」として扱いますが、攻撃を実行した場合、1dを振り、その出目が3以下だった場合、体力の使いすぎで膝をついてしまいます。膝をついた場合、その次の1ラウンドの間、セリーヌは一切の行動ができません。

敗北条件：セリーヌの被撃破

セリーヌ

「なんだか、よく分からない敵だった…」

そう言って、つい先ほど倒した敵を反芻するセリーヌ。

その時だった。

《《セリーヌが》》、《《戦闘中ではないにも関わらず》》、《《片膝ついたのは》》。

(※GMメモ：RP待機)

セリーヌ

「ガルーダ…？」

君達は、幼女から聞くはずのない単語を聞いた。

精神抵抗力判定 目標値：28

成功時 2d+6、失敗時 2d+9 の MP 減少。

このとき、MP が 13 点以上減った場合、対象は発狂し、次の戦闘において、1d ラウンドの間、最大火力で味方を殴る。

(※GMメモ：RP待機)

??????

『ようやく見つけたよ、破界の嬰兒にして、太極の心』

『世界のすべてを喰らって、我らの願いを叶えたまえ』

君達にしか聞こえない声を聞き、君達は疑問符を浮かべることになるだろう。

(※GMメモ：RP待機)

セリーヌ

「どうかしたの…？」

ともかく、前へ進まなければ話にならない。
先を急いだ方がいいだろう。

2 ボス～3 ボス前半道中

同刻——

子分の蛮族

「見つけましたよ！嵐神の召喚式！いっぱい！」
「これを■■■様に捧げれば、少しは褒めてもらえますよ！」

蛮族が、御用邸の2階で、何やら怪しいことをしていた。

親分の蛮族（姉）

「よくやった。悪いが…」

そう言って、親分と思しい蛮族は、子分の蛮族達を斬り殺す。

親分の蛮族（妹）

「私達姉妹が、使わせてもらう」

子分の蛮族達は、声も立てずに死んでいく。

親分の蛮族（姉）

「スバルナ、早速だがやるぞ。魔力については問題ないな？」

スバルナ

「はい、姉さん。…全く、アストリッドとか言ったか？アイツが地下に籠もってくれてて助かったよ…。おかげで、この召喚式に手をつけることができる」

そう言う、2匹の「ガルーダ」の双眸が、緑色に光り始めていた…。

<hr>

（※GMメモ：RP待機）

君達は、先ほどの部屋に生じた裂け目を通り、2 階へと向かった。
辿り着いた 2 階で、やはりアカシアと魔動機に遭遇する。

(※GM メモ：RP 待機)

敵：ラテリック・マギランサー×4、アカシック・エイビス×1

敵を片付けると、ラテリック・マギランサーの 1 体が小さなカードを落とした。

(※GM メモ：RP 待機)

宝物鑑定判定をしている暇はなさそうだ。

敵：アカシック・アルボル×4、アカシック・アサシネーター×1

君達は敵をすべて片付けた。

宝物鑑定判定 目標値：28

成功時、それが 2 階奥の扉にかかった封印を解除するための鍵であることが分かる。

破いて使用することで、封印を解除できるようだ。

なお、再判定は何度もやっても問題ない。

3 ボス前半：チラーダ、スパルナ

君達は、2 階の最奥に辿り着いた。

扉にかかった、穢れなき者を払い除ける封印を、カードを破くことで解除する。

スパルナ

「おやあ…？どうやら、お客のようだ…チラーダ」

チラーダ

「ああ。…叩きのめすでしょう」

敵：チラーダ、スパルナ

勝利条件：チラーダ、スパルナの HP30%以下

敗北条件：セリーヌの被撃破

君達は、チラーダとスパルナを撃退した。

スパルナ

「クソ…、姉さん！」

チラーダ

「ああ…！生来せよ、我らの神よ…！」

彼女らが祈りを捧げ、そして絶命する。

そこに現れたのは、嵐神と呼ばれる神——。

ガルーダ

『アーツハハハハハハッ！虫ケラ共よ…、喜べ。そして地に伏して崇めるのじゃ。

混沌を極めるこの大空を、至神たるわたくしが治めてやろう…』

(※GMメモ：RP待機)

ガルーダ

『ふん、己が分際を弁えぬか…。ならば骨身に刻むがいい…わたくしの威光を…！』

『はじめようぞ、虫ケラ——わたくしの風でッ、嵐でッ、無惨に散れッ！』

敵：嵐神ガルーダ

ガルーダ

『オオオッ…オオオオオッ…』

よろけるガルーダ。しかし、ほんの数秒で立て直す。

ガルーダ

『アーツハハハハハハッ！無駄じゃッ、無駄なことじゃッ！愚かなクソ虫めがッ！その程度で、わたくしが|寂滅《じゃくめつ》するとでも思うたかッ！

彼女らの祈りは、わたくしを強くする…！いくら、わたくしを追い詰めたところでッ！

彼女らの祈りはまして強まりッ、その願いによって、わたくしは更なる力を得るッ！

まずはその幼子から…無窮の力を持つ貴様を、|信徒《テンパード》にすれば…！』

ガルードが、セリーヌを掴む。

セリーヌ

「きず…が…！ そんな…！

いやだ…こんな…こんな…ところで…。こんなところで死ねるかァ！」

時間が止まる。

??????

『目覚めよ…』

『目覚めよ…因果の子…』

『目覚めよ…レギンレイヴル！』

御用邸が吹っ飛ぶほどの衝撃を以て、君達は戦場の外にはじき出される。

ここからのフェーズは騎神レギンレイヴルを操作します。

(※GMメモ：BGM「Control」)

爆発の中心に、騎神が在った。

エクセリア

「セリーヌ！…まさか、アレが…召喚獣レギンレイヴルなのか…！？」

(※GMメモ：RP待機)

レギンレイヴル

「ウオオオオオオオ！！」

ガルード

『ほう…？この小娘、ドミナントだったか。まあいい、意地でねじ伏せるまでよ』

敵：嵐神ガルード

勝利条件：ガルードのHP40%以下

騎神がガルードを叩き落とす。

ガルードが放った渾身の一撃を、光に置き換えて焼き払う。

(※GMメモ：ガルードのHPを残り5%にする)

地面から生えてきた剣が、槍が——ガルードを串刺しにして拘束する。

レギンレイヴルの「アルティメットエンド・ヴァルキュリア」

全身から放たれる覇気が、ガルードに断末魔すら放たせずに焼き尽くした。

(※GMメモ：RP待機)

しかし、まだ足りないのだろう——レギンレイヴルは、ガルードを殴りに行こうとしていた。

エクセリア

「やめるんだ、セリーヌ！」

倒して尚、ガルードを殴ることをやめないレギンレイヴルを静止するべく、エクセリアは君達に退却を指示する。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「聞こえないのか！やめろ！」

(※GMメモ：BGM「Fall from Grace」)

赤い雷が降り注ぐ。

状況を飲み込めないレギンレイヴルは、その原因を探る。

そうして視界に収めた召喚獣コズミック・クェーサー・リズンを睨み、静止に対する怒りからか、吼える。

騎神が斬りかかったが、それが珥焰の召喚獣に当たることはなく。

エクセリア

『私はやめろと言った！』

いつの間にか空中に飛び上がっていたそれが、最大出力の炎雷をレギンレイヴルにぶつけることで、レギンレイヴルを静止させた。

エクセリア

「やーっと大人しくなったか…。

幸いにも 1 階と 2 階が蒸発しただけで済んでよかったもんだ」

…セリーヌの処遇は、親であるエクセリアに委ねよう。

祈りの果て

…君達が、嵐神を討ったことで盛り上がっている頃。

エクセリアは、セリーヌの部屋で彼女に向き合っていた。

エクセリア

「セリーヌ、大丈夫か…？」

セリーヌ

「ごめんなさい…。力、使いこなせなかった…」

娘の涙を見て、エクセリアは『あの日』を思い出す。

財団による認識操作もあったとはいえ、あの日、シヴァに顕現していたリーンを——

エクセリア

「誰だって、最初はそうなる」

エクセリアは、その事実を強引に飲み込んで、セリーヌに言った。母子そろってドミナント、と言う事実だけでも笑えないが、そんなことはどうでもよかった。

先が長いとは断言できない身であったが故に、エクセリアは「ミュトスの力でセリーヌの安全を担保する」という方法は取れなかった。

エクセリア

「生きて戻った。今は、それだけでいい…」

<hr>

…それはさておき。

(※GMメモ：RP待機)

セレネは、飲み食いを繰り返す君達に呆れていた。

報酬

経験点

このシナリオに経験点報酬はありません。

資金

- ・ 基本：5000G
- ・ 廃墟探索 ラテリック御用邸：2500G
- ・ エクセリアからの特別補填：7500G

名誉点

このシナリオに名誉点報酬はありません。